

シャボン玉石鹼(株) 社長 森田光得 講演録

「魂の叫びが聞こえますか・・・」(抜粋)

テレビで洗剤の宣伝を見てみますと、「白さが違います」と「白さ」を強調しますよね。「白さ」と「香り」が合成洗剤のキャッチフレーズです。「香り」は香料なんです。「白さ」は何か。合成洗剤は汚れの落ちがいいから、と。とんでもない。公的機関で、同じ条件で洗浄試験をしますと、石鹼の方が上です。合成洗剤は汚れ落ちが悪いから、色んな補助剤を使っています。

先に琵琶湖条例でお話しましたが、リン酸塩、これを入れる毎に洗浄力が増すんです。今は、リン酸塩の代わりにゼオライトと言うのを入れるんです。それから「白さ」を強調するために、蛍光剤を入れます。

洗剤を使っている人は、家に帰って箱を見てください。必ず書いてあります。蛍光増白剤。これは、汚れを落とすんでなくて、衣類の上から染める。日本人は、戦後、特に米軍に占領されてから壁など何にでも真っ白に塗りたくり、衣類でも真っ白でないと安心しない。この蛍光剤は、今、世界中で発ガン性が問題になっている物質です。ですから世界中各国で食品に使用禁止されています。前は使っていたんです。

蛍光剤を使うと、カマボコが白く見えるのです。今、食品衛生法と言う法律で、食べ物には一切禁止、食べ物を包装する包装資材、これも禁止です。食べ物に関連するもの、紙コップ、紙のお皿、ナプキン、それから台所の布巾なども禁止です。

薬事法では、生理用品、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、それからよだれ掛け、子供用の紙おむつなんかも禁止。薬局法では、ガーゼ、脱脂綿です。結局、薬事法や薬局法で禁止になっているものは、みんな肌に直接当てるものです。これらは全部禁止です。だけど、蛍光剤が毒である、なんてことは、一般の人は知らない。誰も教えてくれない。学校も教えないし、先生も知りません。

洗剤の場合は「白さ」と「香り」のテレビばかりで、うちの商品の方がもっと白い、と言う宣伝をやって、普通の何も知らない人は、その宣伝につられて、そして、スーパーへ行けば安売りやっていますから、そういうのが売れるんです。

だから、若い母親は、それでオムツを洗ったり、下着やよだれ掛けも洗うのです。新聞社から洗剤をタダ貰っているからといって、使わなきゃ損、と台所の布巾なんかも全

部洗うんです。蛍光剤を使っていない布巾を買ってきて、それを全部合成洗剤で洗ったら、サーッと蛍光剤がくっついてしまいます。その布巾で茶碗や箸を拭きますと、茶碗や箸に蛍光剤が移るんです。移る、染めるを、「移染」と言います。

この蛍光剤と言うのは、しつこくって、一回つくとなかなかとれない。病院で使っている「白衣」ですね。無蛍光の物を探したんですがないんです。うちの研究室で、その蛍光色のものを嫌々ながら着ていますが、何べんも何べんも洗濯します。100回くらい干さないで、付いたのはとれないんです。その蛍光剤がとれないだけでなく、とれた蛍光剤の排水は川や海に流れていくんです。

家庭で、家族の健康と幸福を考える奥さんが、その布巾をそのようにして茶碗を洗って、その上に食べ物を置くでしょう。だから、蛍光剤の毒性を知っている人であれば、この奥さん、家族を殺す気か、と思うんです。食べ物屋さんも、布巾を合成洗剤で洗っているんです。その上に食べ物を置いても、肉眼じゃ見えないから。

ブラックライトを暗いところで当てますと、蛍光剤が入っていることがわかります。豆腐でも、それを漉す木綿を、その洗剤で洗っていた業者があるんです。その豆腐、ブラックライトで見ると青白く光るんです。

今、水の汚染が言われていますが、水道水に蛍光剤が含まれていても調査しなくしなくていいんです。洗濯用の合成洗剤は、検査項目に入っています。シャンプーや、食器洗い用は非イオン系統と言って、今、非常に増えています。今の時点では検査項目に入っていません。水道水に含まれる蛍光剤は、今度も検査項目に入らずに「害になる恐れがない」と言うのが当局の返事です。

民家に沿った川、夜遅くなると川面が青白く光ります。家庭の排水が流れ出ますから、川が青白く光るんです。その水は、浄水場へ行くんです。この蛍光剤と言うのは、非常に分解しにくいのです。分解しにくいのは、どこかに紛れ込む、と言うことです。だから、水道水に含まれていてもちっともおかしくない。

何故、そういうようなことが許可になっているのか。食品衛生法で駄目と言い、薬事法でも、それから薬局法でも駄目だ、と言っているのに、合成洗剤の洗濯用だけいいと言う。だから、食器洗い用洗剤には入っていないのです。これは、食品衛生法で禁止されていますから。食品に関するのは使用禁止なのです。だけど、洗濯用の中に堂々と入れられて、政府もこの程度ならば問題がない、とうそぶいています。ちょっとおかしいですね。

まず、そういうことを消費者が知らない、ということが一番のネックになります。消費者の「こう言う悪いものを即刻やめさせろ！」と言う声がどんどん盛り上げれば、洗剤メーカーにピッタリくっついているところも、やはり止めさえよう、と言うような法律になってくると思うんです。

私の知っている自民党の大臣は、もう二十年、うちの石鹼しか使わないんです。なぜか、と聞きますと、結婚して赤ちゃんができ、その赤ちゃんがアトピーになったんです。どこのを使ったら宜しいか、と言うことになったので、うちの石鹼をお金を出して使いなさい、他のもらい物は駄目です。自分の家族のこととなると、これは悪いと分かるんです。だけど、法律を作ろうと言う運動までにはならないんです。やはり、消費者が皆ワーワー言わなければならない。

蛍光剤のほかに、さっき申したリン。リンの代わりにゼオライトと言うものを現在大手メーカーは使っています。これはどう言う物か、と言いますと、砂ですね。はっきり言えばアルミのケイ酸塩と言う物なんです。人工的に化学的に作り出されたものですが、これは、硬水を軟水にしやすくするとか、石鹼カスが出るのを防ぐとかの役目をするんです。

リンみたいに強烈ではないのですが、もし家にありましたら、コップに洗剤を溶かして泡立て、しばらく置いてみて下さい。底に砂のような物がたまります。これが、ゼオライトです。これは直径1ミクロン、つまり1000分の1ミリの微粒子です。

普通の家庭では洗濯機を窓際に置いていますよね。窓から風が吹いてきます。洗剤を洗濯機に入れる時、ゼオライトを真っ先に吸うのはその人自身です。もしもその近くの部屋に赤ちゃんが寝ていたとしたら、赤ちゃんの鼻や口からも侵入するでしょう。怖い話です。農薬にしる洗剤にしる、毒物を使用する人が一番被害に逢います。ゼオライトはアルミです。アルミの化合物です。

皆さん、アルツハイマーってご存知でしょう。老人性痴呆症のことです。目に見えないアルミの破片が、たいした量ではない、と言いますが、アルミの鍋を止めたと言う奥さんが多いのです。

何故か。アルツハイマーの学会で、患者さんの血液を調べたら健康な人の4倍のアルミが含まれているんです。今のところ、アルミはアルツハイマーの最大の原因と言われているんです。私も年をとっていくばかりですから、アルミは出来るだけ取らないようにした方が良くと思っています。

しかも、ゼオライトと言うのは、川に流れますと、川に堆積するわけです。海に流れますと、海に堆積するわけなんです。堆積するだけならいいんですが、初めは、ヘドロみたいに柔らかいんですけど、だんだん日数を経ますと、コンクリートのように固まるんです。川の生物は、石ころがあれば、その石ころの裏に微生物が卵を生んだりして生活しているんです。

ゼオライトが貯まり、そういう所をコンクリートのように塞ぎますと、それでなくても減っているのに、ますます生きる場所が狭められていくわけです。

九州に大村湾という内海があって、この漁協の婦人部が、私の会社の工場見学に来たときに、もう、大村湾の漁業は駄目です、と。何かあったんですか、と聞きますと、ゼオライトが蓄積して、海底で卵を産み付けることができなくなり、魚介類の種類も減り、漁獲量も大幅に減ってしまいました。

それで、そのゼオライトを取っ払おうや、と言う話になったけれども、そんな予算どこにあるか、また、広い海をどうして浚渫するのか、です。しかも、今元気な生き物は、今後、浚渫するとどうなるのか。とどのつまりは、沿岸の住民に、合成洗剤を使わないようにお願いすると言うことしかない。

合成洗剤の怖さを住民に教えてくれと言われ、大村漁港の組合へ、私は3回、言ってお話したんですけど、家には一昨日新聞社から貰った合成洗剤がある、それを使ってから、そうしようか・・・と言う程度です。やはり、ただの物がありますと、そうを使うことになります。

人間と言うのは、便利さと値段の安さを追求してきて、日本の国は経済的に発展してきたかもしれませんが、そのお陰で、色んな病気が増えてきました。体が弱くなり、0-157にも簡単に発病すると言うことです。